

「こまねこまつり」を通じた 京丹後市内の地域資源の発掘と発信

福知山公立大学 地域経営学部 小山ゼミ

はじめに

2024年度に小山ゼミが全体で取り組んだ活動内容・今後の取り組みについて紹介する。今年度は、町歩き班(2・3回生)、広報班(2・3回生)、テレビ班(4回生)に分担し運営を行なった。

こまねこまつり・こまねこウォーク

こまねこまつりとは、定期で開催しているこんぴら手づくり市の記念会となっている。今年は、大学生もフルーツポンチとクレープ屋を出店した。こまねこウォークでは、「京丹後のものづくり」をテーマに大学生が紹介しながら町を歩いた。

てくてく我がまち再発見！
こまねこウォーク「ものづくりのまち峰山」



【開催日】令和6年10月19日(土) (少雨決行)
【時間】午前9時～正午
【集合】京丹後市役所峰山庁舎前(8時30分受付開始)
【参加費】500円(傷害保険加入及び体験等、当日徴収します)
【定員】30名(要申込・先着順)
【申込締切】10/10(木)
【申込先】羽衣ステーション事務局
電話 0772-62-8560 FAX 0772-62-8561
メール mailmaster@hagoromo.gr.jp (名前、生年月日、連絡先を明記)
【主催】羽衣ステーション・こまねこまつり実行委員会
【協力】福知山公立大学
【コース】日進製作所創業記念館、吉村商店、染色工房嶋津、金刀比羅神社(解散場所)/約3km
福知山公立大学生のガイドのもとに15名程度の班に分かれて歩きます。

今回の「てくてく我がまち再発見」では、ものづくりがテーマです。峰山のまちなかを歩きながら、京丹後の伝統文化に触れ、地元民が気づいていない京丹後の魅力を体験します。まち歩きの際に、ちりめんを使った装飾をみなさんに体験していただきます。



▲実際に使用したチラシ

▼こまねこウォーク当日



まちあるき

参加者の方に街を紹介しながら一緒に散歩をする。当日の日程やルートも大学生が検討した。地元以外の参加者もいたため京丹後・峰山のことや伝統産業「ちりめん」についての説明を行い参加者との対話を意識した。

当日の動き

京丹後市役所 峰山支所 開会式
日進製作所創業記念館
吉村商店
染色工房嶋津
金刀比羅神社 ワークショップ 閉会式

▼インタビュー撮影



番組づくり

京丹後市のローカルテレビと共同で番組作成を行った。住民の方や学生へのインタビュー、イベント風景の撮影を行った。地域住民、学生の思いが伝わるようなインタビュー内容を心がけた。また、カメラを通じて現場の雰囲気や関わる人の熱意が伝わるように構成を練った。

ガイドブック

まちあるきの情報や峰山町のステキな一面などを掲載したガイドブックを作成した。また、ちりめんを利用してブックカバーを作成したことで参加者の方にちりめンを身近に感じ、思い出となるグッズを提供することができた。

峰山町の雰囲気似せるために、紙の材質や色にもこだわりを持った。ちりめんは、地域のちりめん工場の方から提供いただき作成を行った。地域資源を再活用した活動となったと考える。来年度も地域資源を活用した記念品を検討している。

SNS発信

こまねこまつり・こまねこウォークの応援アカウントを運営した。準備・当日の様子などを投稿した。来年度はさらにフォロワー数を増やし、内容を充実させたい。

こまねこ
ウォーク

▼こまねこ応援アカウントInstagram



来年度も運営予定です！こまねこ関連だけでなく、京丹後市や北近畿についても情報発信をします！フォローよろしくお願いします!!

しおりワークショップ

まちあるきの後に京丹後の伝統的工芸品である丹後ちりめんを利用し、世界で一つのオリジナルしおりのワークショップを行った。参加者が実際に体験し、思い出に残るものを作成する機会となった。また、参加者同士で見せ合う様子もあり、交流の場として活用できた。

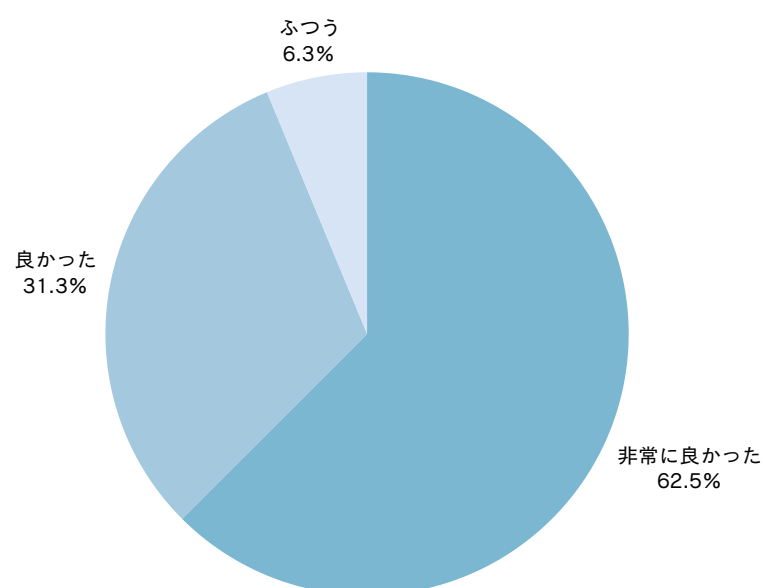


アンケート結果

6割の方が非常に満足、3割の方が満足と9割の方に満足していただくことができた。普段は入れない場所や入る機会がない場所に訪問することができ、さらに地域の魅力に気づくことができたという声があった。

大学生のガイド力に不足を感じている方が多かったため、トレーニングを行う必要がある。

ワークショップやガイドブックの活動が好評だったため、さらなる発展、他イベントでも実施したいと考える。



▲事後アンケートの満足度結果

来年度の構想

来年度もこまねこウォークにも参加予定で、より参加者に地域の魅力が届けられることができる施策を検討している。ガイドブックのレベルアップとして紹介動画や歴史的建造物の全体像を映した動画などを取り入れようと考えている。また、狂言ワークショップ、しおりワークショップのような地域資源や伝統芸能を活かしたワークショップを各イベントなど実施する予定である。